

従業員が会社つくり買収

EBOで操業再開へ

事業の譲渡が決定

九州ブリッジファンド出資

MSK福岡工場

太陽電池メーカー、MSK（東京）の福岡工場（福岡県大牟田市）従業員らでつくる事業継承会社「YOCASOL」（ヨカソル、同）は十八日、MSKからEBO（従業員による事業買収）によって同工場の事業譲渡を受けることが決まったと発表した。九州経済産業局によると、EBOによる事業再生の事例は極めて珍しいという。

MSKは昨夏、中国の業継続を目指していた。同業大手サンテック（江蘇省無錫市）の傘下に入り、田嶋教弘工場長らが七月、市況の悪化から今年二月に同工場の生産を停止、全従業員を解雇する方針だった。これに対して従業員がEBOでの事業

「九州事業継続ブリッジ投資事業有限責任組合（九州ブリッジファンド）」が83%、丸紅（東京）が14%、同工場従業員が3%それぞれ出資する。同工場の買収資金額は

明らかになっていないが、数十億円になるとみられ、ヨカソルに地元銀行などが融資する。今後、MSKから全従業員

従業員三十五人と同工場をヨカソルが引き継ぐ。同社は田嶋工場長が代表取締役会長に、西堀考雄MSK財務部長が社長に就任する。

同社は十月十日までに譲渡手続きを完了させ、欧州向け発電用パネルの生産を再開する。本年度内に従業員を百人態勢に増員し、数年内に年間百億円の売り上げを目指すという。

同工場は、二〇〇四年に操業を開始し、主にシリコン結晶系のセル（太陽電池素子）を発電用パネルに組み上げる工程を受け持っていた。

EBO（従業員による事業買収）

従業員が投資ファンドなどの協力を受けて自社株を取得などし、経営権や事業を買収すること。エンプロイー・バイアウトの頭文字。これに対し、会社の経営陣が株主から自社株の譲渡を受けるなどしてオーナーとなり独立することをMBO（マネジメント・バイアウト）という。EBOは、MBOに比べると投資ファンドの協力が得にくいことから、事例は少ない。

